

NO.180

全 日 仏

9 / 47



大正大震災遭難者 秋季慰霊大法要
都内戦災殉難者

大会せまる

いよいよ後一ヶ月に

第二十回全日本仏教徒会議

青森大会を

迎えての回想

船口 暉子

(全日本仏教婦人連盟
事務総長)

今年第二十回という記念すべき全日本仏教徒会議が
みちのくのさいはて青森市で開催されることになりました。

顧みて二昔前、紀州の豊山高野の道場で第一回が開
かれて以来、ところをかえ、宗派を超えて、世界に比
類のない無上の宗教、釈尊のみ教えのもと、美しい和
合の祭会はつづけられました。

第二回が北陸の大本山永平寺で開催された時、全国
各地各宗より選ばれた仏教婦人代表七十二人がこの世
紀の大会に馳せ参りました。

第四婦人部会において、

「仏教の興隆は家庭から」

「平和の叫びは仏教婦人の団結によって」

等討議の結果、意気高らかに仏婦結成を誓い、ここに
全日本仏教婦人連盟は名も知らぬ、宗派も知らぬ初顔
合せの仏教婦人が、ただ仏教を信仰する者との安らぎ
だけで、十年の知己の様に信じ合い固く手をとり合っ
てうぶ声をあげ、一人一人の統台と、協力を目指して
歩みの第一歩を踏みしめたのでした。(昭和二十九年
十月六日)

もちろん全員の総意で全日本仏教会への加盟を誓い
合ったことはいまでもありません。

その年十二月三日、第三回世界仏教徒会議がビルマ
に開かれるに際し、全仏当局からは婦人代表参加の呼
びかけを受けました。まことにチャンスでした。

山本スギ理事長は「仏教伝来以来、光明皇后のはた
らきをはじめ仏教婦人の社会に貢献した事跡は数かぎ
りないけれども、十余人もの婦人が日本仏教徒の代表
として海外に使いすることは有史以来の壮挙であり、
まことに意義深くかつ責任の重さを感じ、全力を尽し
たい」と延べ十二人の代表が選ばれました。

現在に及んで海外旅行は誰にも出来る茶飯事とされ
ましたが、その頃、しかも戦後の混乱もまだ消えやら
ぬさなか、飛行機チャーターで仏教徒が大挙しての海
外派遣の行事は世間の眼をみはらせるに充分なもので
した。

ましよう。

第三回身延山、第四回比叡山、第五回東大寺、第六
回浅草寺、第七回知恩院、この頃から寺院でなく地方
仏教会主催となり、第八回石川県、第九回神奈川県、
第十回大阪、第十一回九州、第十二回静岡県、第十三
回長野県、第十四回愛知県、第十五回岐阜県、第十六
回岡山県、第十七回千葉県、第十八回新潟県、第十九
回四国、そして今年を迎えた青森大会というわけだ

過ぎこし二十回、全仏では、仏婦の特性が認めら
れ、ある時は期を同じゅうして同地に大会を許され、
時には前夜祭の形で仏婦大会には全日仏幹部諸大徳方
多数の御臨席を頂き、種々御配慮頂いたことも二度、
三度ではありませんでした。金沢、神奈川、静岡、長
野等その主なものでした。会場入口のアーチ等も全
仏、仏婦と同様のものが左右に飾られ、前夜祭がすめ
ば直ちに翌朝は全仏の看板に差し換えられるという仕
組もあり、その他その所に従って、その様式は種々あ
りました。まことに感激深いものでございました。

第十八回新潟大会では長岡全仏、高田仏婦と地域は
離れておりましたが、全仏の御理解と現地の熱意で非
常に盛会を極めさせて頂き、今想い出しても感謝に絶
えません。

四国には仏婦の組織が全然なく、大会参加も非常に
少なくて慙愧に堪えない次第でした。

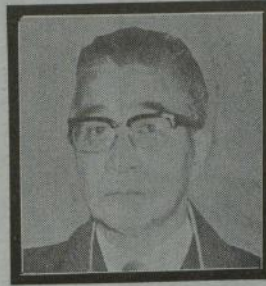
今年最初の企画では、青森大会に合流させて頂く希
望もありましたが、何分まだ同地に仏婦が未組織のた
め、色々の無理があり、協議の結果、婦人部会として
出来るだけ多数の参加を予定しております。

会の持ち方はとに角として、以上のように全仏々婦
は過去の歴史に鑑み、夫唱婦随の美徳を培いながら機
会を得て、婦人の立場で仏法興隆のため、微力ながら
総力を尽したい念願であることを誓ってこの拙い筆を
擱きたいと存じます。

哀悼

星谷理事長 急逝

去る八月十九日午前六時、本会理事長の星谷慶縁師（真宗大谷派）は心筋こうそくのため突然死去された。六十八歳。



師は十八日夜、京都市高倉の宗務総長宅で倒れ、市内東山区七条通大和路の大和病院へ入院されていた。密葬は二十二日、富山県黒部市石田の自坊西照寺で営まれた。なお、九月二日に京都市東山の大谷本廟にて宗門葬が営まれる予定。

師は、昭和四年大谷大学社会学科を卒業後、九州大学法文学科に学び、卒業後昭和十八年大谷派文書部長を皮切りに宗内の要職を歴任、昨年六月宗務総長に就任され、同十二月より全仏理事長も兼任されて今日に至っていた。

なお、本会理事長代行として伊藤哲雄東京本願寺輪番・常務理事がその任にあたる。

星谷慶縁師の急逝を悼む

全日本仏教会々長 曹洞宗 管長 佐藤 泰舜

私が星谷師とお会いしたのは、今年二月東京の永平寺別院長谷寺でお目にかかったのが初めてであります。

それは私が全仏の会長に推されたため、その就任要請のために大谷派宗務総長の職務のなかをわざわざ理事長として事務総長以下各局長とともにこられたのでありますが、このときの印象として感じられたことは、師は非常に全仏を愛し、現代に應える仏教界を如何にして運営していくかについて固い決意を被歴され私も安心してこの方ならばと思いいかに期待していた次第であります。

その後星谷理事長は内部的には宗派の寄合世帯であるむずかしい問題を着々解決されるとともに、対外的には、事務局に命じ、あるいは理事会を開いて当面する問題、例えば韓国神社法案、税制特別委員会の設置、中教審答申にする幼・保育園の宗教教育の問題等々

米・カソリック代表団来日
去る七月十九日アメリカからカソリック代表21名が来日した。
このカソリック代表団は、各宗教者と

について強力にすすめてこられたのであります。

しかるに八月十九日午前六時突然往生の素懐をとげられたことをきき、まことに措きてもなお余りあるものがあり巨星落つ感がいたします。

全仏では本年十月二、三の両日、第二十二回全日本仏教徒会議青森大会を間近にひかえ、さらに全仏の発展興隆を期さねばならない時に星谷理事長を失ったことは、私の深い悲しみであります。

師は大谷派の宗務総長として明春四月の親鸞聖人ご誕生八〇〇年、立教開宗七五〇年の慶讃法要を半年後にひかえて、決断と実行をもって進まれた師を失われたことは大谷派にとっても一大損失であろうとお察しします。

ここに全仏に対しご苦勞いただいたご生前のご功績をしのび、心から哀悼の意を表するものであります。

宗教事情に関する問題等の懇談をかねて世界各地を訪ずれている。

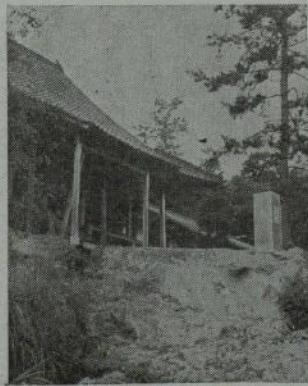
日本滞在日数もわずか四日間と忙がしい日程であったが、八月二十一日浅草住友銀行会議室で催した「日本仏教につい

て」と「神道について」の懇談会にはメモを取るなど熱心に聞き入っていた。講師には、東大教授宮本正尊博士、国学院大学教授小野祖教博士、中山理々師をお招きした。

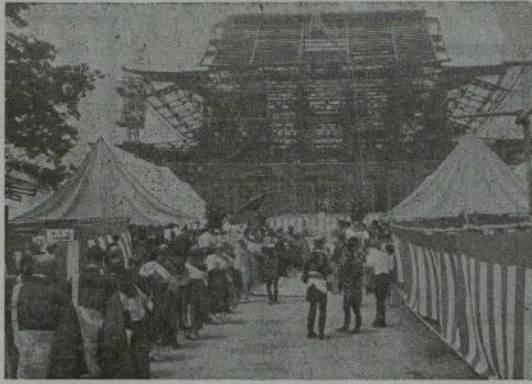
三次市に水害

被災の五方寺に復興資金

去る七月十一・十二日の洪水で被害を受けた三次市の寺々は今、復興を急いでいる。今度の水害は昭和二十七年以来のことと、またこれほどの被害は八十年ぶりだという人もある。三次市は三次地区と十日市地区とに分けられ、特に被害



の大きかったのは十日市地区で、この西覚寺（西）、法正寺（西）、覚善寺（西）、妙音寺（日蓮）等の寺々はひどいところで水深二メートル、本堂の内陣まで水がきたという。洪水になることなどほとんどないといわれていた三次地区でも浄伝寺（西）、専法寺（西）等の寺々は床上まで水がきている。また、日下



町真桑寺(西)、廻神町妙眼寺(日蓮)も被害が大きく、特に妙眼寺は真山と山門が地すべりでくずれ、住職と寺族は今も他所に避難している状態である。この被害に対して浄土真宗本願寺派では、特に被害の大きかった五力寺に対して合計百五十万円の復興資金を貸し出すとのことである。

増上寺大本堂上棟式

開宗八百年前に偉容を再現

さる八月三日、浄土宗大本山芝増上寺の新本堂上棟式が盛大にとり行なわれた。大門先の世界貿易センタービルより大遣りを先頭に、築師式衆の行列が大殿前に到着、古式にのっとり大野法道法主親下を大導師に五導師により行儀が進められ、工匠諸役による上棟曳綱之儀、

散餅散銭等華やかなうちにも荘厳裡に挙行された。

戦災により二十七年間、仮本堂で余儀なくされていた増上寺も再来年の開宗八百年を前にその偉容を再現することになる。

明年末完成のあかつきには、間口二十六間、奥行二十八間、棟高二十間と隣の東京プリンスホテルよりも高く、二階本

全仏機構改正案第二次案提示さる

全仏機構改正案起草委員会

全仏機構改正案起草委員会は、去る八月十日、伊藤勝淳・真溪義賢・藤田詔量郡司博道の各委員が出席して行なわれ慎重なる討議の結果、第二次案が提示された。第二次案の全文は以下の通りである。

◇ ◇ ◇

全仏機構改正案起草委員会は、さきに答申された「全仏」の機構刷新に関する答申書を充分検討し、緊急に具現すべきであると思われる事項を第一次案として提示して答申した。これについては、当局も諸般の事情を勘案しつつ、できる限り実現する旨を言明した。

しかし、この答申については、その趣旨は充分尊重しつつも、当局としては種々の事情で早急に実現できない点もある

堂は一千名を収容し、一階寺務所客室、三階には修養道場を、その他地下一階には大ホール、TVスタジオ、地下二階には霊廟等諸施設も完備されることとなる。

当日は福岡宗務総長はじめ宗関係、檀信徒等数百名、来賓として総持寺岩本貫首、築地本願寺、全仏より麻布事務総長らが出席していた。

任した大使的人材を選任し、全仏の機能発揮を期すること。

④宗務総長会議、都道府県仏会長会議を密附行為に規定すること。

⑤従来全日本仏教徒会議は、地方仏

教徒組織の拡充強化ならびに仏教徒意識昂揚のための一種のデモンストレーションであり、フェスティバルの性格を持っており、仏教界が当面する重要問題の討議にはふさわしくない。

従って、全仏当局が諮問事項を提出して会衆の声を聞くに止める仏教徒大会とすること。

⑥仏教界の当面する重要問題については、加盟団体代表、学識経験者(当局が委嘱)等による小教精鋭主義の「全日本仏教徒代表者会議」を設置し、権威ある協議機関とすること。

⑦事務総局は局制をとり、総務局(庶務部・財務部)、組織局(組織部・弘報部)、文化局(文化部、国際部)の三局とする。なお、事務総長、事務次長及び各局長は常務理事の中からこれを選任する。

⑧専門委員は、従来の部門別とするも、それぞれエキスパートに委嘱し、充分これを活用すること。

⑨役員、職員は任期を一年にすること。但し、再任を妨げない。

⑩仏教の社会的発言を行うためのアドバイザー委員会を設けること。

⑪すべての加盟団体に全仏担当者を設置することを要請すること。

中山妙宗法華経寺

日蓮と和解成立

前より合同復帰の叫ばれていた日蓮宗と中山妙宗法華経寺の間で八月七日和解が成立した。昭和二十一年三月、中山妙宗が日蓮宗より離脱、新宗団を創建して以来、両宗の間で訴訟問題等色々の復帰合同の試みがなされてきたが、このたび二十六年ぶりに和解をみるにいたった。日蓮宗と中山妙宗は八月八日、次の共同声明を発表した。

日蓮宗と中山妙宗の合同は、多年両者の念願でありながらその実現を見ず、就中、正中山法華経寺の帰属を繞ぐる問題は二十余年の長期に亘る法廷論争ともなり、門下は等しく憂慮し、一日も速く円満解決せんことを待望して今日に及んだのであったが、時恰かも宗祖降誕七百五十年という嘉年を迎えるにあたり、この機を逸して円満解決の時なし、という熱情沸然として相互間に湧き起り、各関係代表者の会談及び両宗派それぞれの議決機関の決議を経て、遂に本月五日東京高裁の法廷において石田裁判長の勧告並びに双方代理人の協力に依り和解成立し、中山妙宗は正中山法華経寺と共に日蓮宗に合同するという決定を見るに至ったのである。

思えば文応元年、宗祖が下総中山の富木邸に足跡を印されてから七百十余年、連綿として引継がれてきた正中山法華経寺は、今正しく和合教団の往昔に還ったのである。

同山が、関東における大本山として正法宣布の一大拠点であり、修法の根本道場であり、宗祖が魂魄を注がせ給うた観心本尊妙等多数のご真蹟を蔵する聖教殿の聖跡であることは万人の知るところ、その尊厳なる歴史と伝統を有する同山の問題は少なくとも法廷論争の場を超え、須らく祖意を体して解決にあたるべきもの、すなわち二者は実は一者であり、一体となることこそご聖意なりと合意し、法律的措施の一切は和解調書に基づいて行なわれることとし、我々は先づ合同体制の上で起つて、この結果を宗祖並びに先師に報告し、深く慚愧して冥助を仰ぎ千載一遇の年にこの解決を得たることを以つて、せももの報恩に擬せんとするものである。錦繡の佳日を選び祖山並びに中山において右奉告報告報恩法要を厳修するが、長い間本件に関しご配慮を頂いた諸賢に対し、この決定を報告し、深く謝意を表し度く敢えてこの声明を行な

つた次第である。

昭和四十七年八月七日

日蓮宗宗務総長 渡部 公允

中山妙宗宗務長 武井 日蓮
中山三法類代表 望月 桓匡

青森大会準備進む

大会幹事決まる

全日本仏教徒会議青森大会もその準備に後一月を残すのみとなり関係者はあわただしい毎日を送っている。記念事業である墨跡展の方も各大徳よりの染筆が順調に集まり担当者も着々と準備を進めている。なお、墨跡展の会場は青森市内亀長デパートである。また、檀信徒部会についてはその基調講演に全仏副会長金子日威猷下(日蓮宗管長)をお願いすることに決まった。

- 部会長 山本スギ
- 副部会長 白川良純、山崎いま
- 助言者 摩尼清之
- 議事運営委員
- 委員長 新川日見

- 第一部会
- 主査 伊東堅純
- 委員 井上日宏、塩入亮達

- 第一部会
- 主査 椎谷 健
- 委員 石上慈敬、門屋大寿

- 第三部会
- 主査 船口暉子
- 委員 岩本英樹、島田喜久子

- 議案審査委員会
- 委員長 板橋有成
- 副委員長 神野真一
- 委員 熊野竜夫、白川良純

- 第一部会
- 部会長 熊野竜夫
- 副部会長 新美孝道、佐々木順二
- 助言者 板橋有成、真溪義貴

- 第二部会
- 部会長 竹中修一
- 副部会長 慶野聡郎、野村光三、米谷 順

助言者 (未定)

第三部会

- 委員長 清水谷孝尚
- 副委員長 郡司博道
- 委員 金岡秀友、久保泰太清
- 塩入亮達

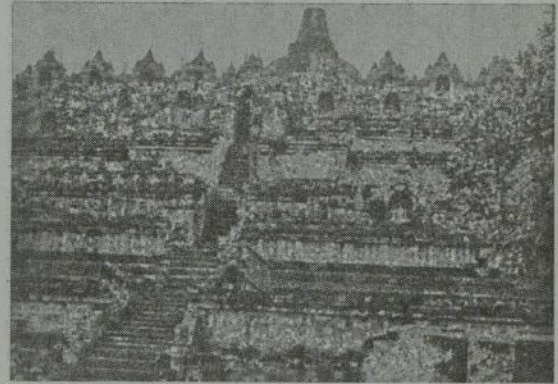
昭和47年9月1日

インドシナの平和と正義の ための宗教者世界集会

去る八月十日、「インドシナの平和と正義のための宗教者世界集会」に出席した仏教代表の歓迎会が三笠会館に於て五時開催された。
ベトナム統一仏教会々長 テック・テ・ド師、スリランカ共和国仏教会々長、スリーマナ・テッサ師を代表とする十一名の代表団は、七月三十日より八月一日までの三日間、東京、山手教会で開催された宗教者世界集会に参加致したのち、各宗本山参拝を終え八月二十二日帰国された。

全仏八月 行事日程

- 三日 全仏機構改正案起草委員会
増上寺本堂上棟式
- 七日 ベトナム仏教関係者歓迎会
- 十日 全仏機構改正案起草委員会
各国仏教代表団来所
局内会議
- 十八日 税制特別委、文化庁宗務課と懇談
- 二十一日 局内会議
- 二十四日 文化会議打合
- 二十八日 仏教文化会議
- 二十九日 仏教文化会議



援助を待つ ボロブドール

その国には美しい緑がある。
まばゆい太陽の光がある。
この国の人たちは、昨日も今日も昔とかわらない生活をしている。
山の木を伐り、田畑を耕し、握られたノミによって素晴らしい木彫が創られてゆく。

いづこでも聞かれる祈りことは、これがインドネシアであろう。
今回、インドネシア仏教会との交流、交歓を機縁として視察するボロブドール遺跡は、インドのアジャンタヤエローラ

—— 子代田トラベル が贈るインド・ボロブドールの旅 ——

各国合同成道会インド仏跡参拝団

主催：(財)国際仏教興隆協会
昭和47年11月29日～12月16日
参加費用 345,000円

ボロブドール遺跡見学の旅

主催：(財)全日本仏教会
昭和48年2月26日～3月8日
参加費用 280,000円

ローンのご使用が出来ます。資料ご請求は下記宛へ

—— 指定取扱旅行会社 ——

国際旅行業協会会員
運輸大臣登録一般154号

株式会社 子代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号(千成ビル)
電話 407-3612(代)・400-5100 郵便番号 107

ボロブドール遺跡視察団募集

日数	月日(曜)	時間	発着都市名	交通機関	摘 要
1	2月26日 (月)	09:50 18:15	東京発 ジャカルタ着	JL/711	日本航空 711便でインドネシアの首都ジャカルタへ(香港・シンガポール経由) 着後特別バスでホテルへ (ゴヤカルタ泊)
2	2月27日 (火)		ジャカルタ滞在		インドネシア仏教会訪問その後ジャカルタ市内及び郊外観光博物館文化センター、ボゴール植物園、港町のタンジュン プリオク見学など (ジャカルタ泊)
3	2月28日 (水)	10:10 11:55	ジャカルタ発 デンパサール着	GA/983	ガルーダ航空 983便で地上の楽園といわれるバリ島へ 着後 特別バスでホテルへ レゴンドダンス観賞 (バリ島泊)
4	3月1日 (木)		デンパサール 滞在		終日バリ島周遊。キンタマニ山、タムバクシリリング等を経てインドネシア料理の中食後美しい風景を観賞しながらホテルへ帰還。 夜ゲチャックダンス観賞。 (バリ島泊)
5	3月2日 (金)		デンパサール 滞在		この島特有の絵画、木彫り、はた織りなど民芸の鑑賞と海浜の自由休憩に1日を楽しむ。 (バリ島泊)
6	3月3日 (土)	13:40 14:40	デンパサール発 ジョクジャカルタ着	GA/643	インドネシア航空 643便で中部ジャワの古都ジョクジャカルタへ。 ホテル着後自由散策。 (ジョクジャカルタ泊)
7	3月4日 (日)		ジョクジャカルタ 滞在		世界の芸術文化史上最も貴重な遺蹟ボロブドールとプランパナンヒンズー寺院を終日見学。 (ジョクジャカルタ泊)
8	3月5日 (月)	14:30 15:30	ジョクジャカルタ発 ジャカルタ着	GA/441	午前中パティックの工場を訪問、その製作工程を見学。 午後、インドネシア航空 441便でインドネシアの首府ジャカルタへ (ジャカルタ泊)
9	3月6日 (火)	09:45 11:45	ジャカルタ発 シンガポール着	GA/980	インドネシア航空 980便でシンガポールへ。 午後シンガポールの市内見学。 (シンガポール泊)
10	3月7日 (水)		シンガポール 滞在		特別バスでジョホールへ水道へ、中食はジョホール名物のカニ料理で午後シンガポール仏教会訪問 (シンガポール泊)
11	3月8日 (木)	11:15 20:45	シンガポール発 東京着	JL/712	日本航空 712便でシンガポール発帰国(香港経由)

或は、クメールのアンコールワット遺跡と共に世界的に有名な仏教遺跡であり、釈尊のみ教を信ずる古の仏教徒の偉大な信仰遺産であると共に、全世界人類の至宝でありましょう。この遺跡はジャワ中部のジョクジャカルタの街からマゲランに通じる道を30km進み、ムンチランの街を過ぎるとほどなく目的のボロブドールへ通じる道が西に曲って分れ、更に、そこから9kmあまりゆくと椰子林の中に

ボロブドール遺跡があります。今から約一〇〇〇年前、大乘仏教を信奉していた当時のシャイレンドラ王朝によって、これが建設されたといわれています。「abatur」という言葉は、合成語で「丘の上の僧房」という意味であると言われております。

このボロブドール遺跡も、熱帯の厳しい自然のもとで二千年を経過して、今日では風化が激しく崩壊の危機に瀕してお

ります。かつて、オランダ政府、或はインドネシア政府により修理の手がさしべられましたが、諸般の事情により行き詰り、一九六七年にインドネシア政府はユネスコに全面的に保全と修理の援助を要請しました。幸いにも、その要請にこたえたユネスコ、現在我が国にも技術的また資金的にも援助を求めております。

日本の仏教界でも、多くの方々が関心を持たれており、「適当な企画があれば

……」との声もあり、今回、当全日本仏教会として左記日程により視察団を特に企画いたしました。皆様方の御参加をお願い致します。

◎申し込み締切 十二月二十日
申し込み書御希望の方は全仏国際局迄お申越しなれば用紙御送り致します
(総額二十八万円)

影印本

秘蔵・韓国々宝を初めて全巻刊行！

世界各国より度々出版を試み許可されなかつた韓国海印寺秘蔵の高麗大蔵經の経板、八万余枚の影印製本を可能とした仏教学界の至宝です。

高麗大蔵經

寺宝に／学究の座右に／寺院の寄贈に…

- 七百余年を経た古典
- 超宗派の原典
- 世界唯一の経板による
- 全四十五巻・完璧な集録
- 写影であるから一字一句誤りがない

(造本・体裁)

縦 37cm 厚さ 7cm
 横 27cm 重さ 7kg
 平均 1,150ページ

(ご要望に応じ、カタログをご送付致します)

アジア文化事業株式会社

東京都新宿区西新宿8-3-31 / TEL (03)371-0125~6

昭和四十七年九月一日発行
八三〇号第一八〇号

発行人 麻布照海 編集人 岩脇宏信

発行人 財団法人 全日本仏教会